

2014/08/03

トランス相模レース

14 時ごろ 大島の北方 5 マイル程度 波高く 3m程度

風速 25 ノット 艇速 9-13 ノット

だんだんと吹き上がって来た南西の風に時々サーフィングしながら、小網代を目指してスピンを上げて帆走中。前後でブローチングする艇が見られるようになる。波が高いせいか、一度ブローチングするとなかなか起きないように思われた。

0.5 マイルほど先行していたダンスオブマジックは、一度ブローチングしたあと立て直し再度スピランを始める。この間に少し追い付く。

その後再度ブローチング。今回はなかなか起きず、傾いたまま当艇の進行先に出て来て（東方向に進む）、ちょっと接触の危険も感じたが、回転して西方向に戻ったため安全に横を通過。

こちらにもブローチングの可能性があったので、走りに集中していた。メインセールが降りているのを見たがブームも無いように見えたのでグースネックのトラブルかとも思う。他艇のブローチングも立て直すまでかなり長時間かかっていたので、メインセールが降りていたことをちょっと異常だと思ったくらいで横を通過。通過後もしばらくは見えていたが高速で走っていたので、見失う。

このとき、ダンスオブマジックの乗員は落水救助活動中だったのか当然ながらこちらには何もアプローチが無かった。もしかすると当艇がいることも気がついていなかったかもしれない。ここで気がついていれば救助活動に協力できたので残念。今回は後で救助されたがもし不幸な事になっていれば大変な後悔の場面です。

★信号紅炎などコックピットからすぐに取り出せる所に収納しておけばこのような状況ではすぐに点火できるかもしれない。



その後風速が 30 ノットを超えたのでスピンドウン。ジブで走り始めたところ VHF（5W ハンディー国際 VHF）で落水者有りと入電。当初艇名としては FORTE が聞こえていたが、

FORTE は救助作業をしている方とわかる。艇名不詳、船体損傷のヨットより 2 名以上が落水という様に理解した。緯度経度の位置情報も発信されていたが聞き取りにくかった、

★このような情報は 3-4 度繰り返して発信した方がよいと思われる。

艇名も位置もわからないので VHF は発信せず聴取に努める。

★一応こちらから問い合わせの送信をするべきだったかもしれないが、後で聞くとところに寄ると VHF の発信をしていた FORTE は当該艇を BASIC だと思っていたようなので効果があったからどうかは不明。

ここでわかったとしても戻るには 2 時間くらいはかかると思われる位置まで来てしまっていた。

洲崎沖の自衛艦からも現場に向かうも到着は 1 時間 30 分後になるという無線も聞く。

途中保安庁の巡視船と交差、救助に向かってくれていると理解する。行く方向としてダンスオブマジックかと想像し始める。

15 時 20 分ごろ既に城ヶ島南西沖魚礁ブイ近くに到達している時に VHF にて当該艇はダンスオブマジックと聞く。既に戻る距離ではなくなっており、巡視艇も行っているのでレースを消極的に続行！風速が 20 ノットを下回ったころスピンを再度展開。

1 時間前コールでレース本部に電話するもつながり難かった。お話中もあつた。落水の連絡とレースの連絡が重複していたと思われる。

★通常の連絡用レース本部電話以外に非常用電話番号を参加艇に知らせておくことは必要かと思われた。

16 : 10 ごろフィニッシュ、直ちにシーボニア入港。巡視船にて救助された事を聞く。

片付けを始めている先行艇などでは落水があつた事も知らない艇もある。

17 : 00 ごろ救助された落水者 (H 氏 71 歳) が巡視艇にて到着。

たまたまハーバー内で話を聞く事ができた。

ヘルムをとって、ブローチング後、スピスがフォアステーに絡まっているのをとろうと操船中ワイルドジャイブ。捕まる所もなく、ライフラインの隙間より落水。

一度はライフリングをつかむ事に成功するが、艇が止まらないため捕まり続ける事が困難となり、捕まっていると溺れそうと言う事もあり、離れる。艇は見えるが、艇からは落水者が見えない状況。ライフジャケットは手動膨張式を自分で膨らませる。1 時間くらいで手がしびれはじめ体温の低下を感じ始めた頃巡視船に救助される。艇上でも BASIC の乗組員かと聞かれる。ヘリコプターが発見して巡視船を誘導したという話もあるが本人はヘリコプターを見ていないという事。

優秀な日本の海上保安庁に感謝！

SHARK X 艇長 関根照久